

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和3年 7 月 17 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	田中千聖

<p>1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)</p> <p>愛知県犬山市 日本モンキーセンター</p>
<p>2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)</p> <p>動物園・博物館実習</p>
<p>3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)</p> <p>令和3年 7月 3日 ~ 令和3年 7月 5日 (3日間)</p>
<p>4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)</p> <p>JMC キュレーター 新宅氏、高野氏、綿貫氏、赤見氏、星野氏、岡部獣医師</p>
<p>5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)</p> <p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>本実習は、動物園・博物館の役割、また、そこでのキュレーターの仕事について学ぶため、日本モンキーセンターにおいて様々な仕事を見学・体験した。</p> <p>■ 日程 2021/7/3 午前：伊谷先生レクチャー、午後：動物園教育(赤見氏) 2021/7/4 午前：飼育実習(星野氏)、午後：標本実習(新宅氏) 2021/7/5 午前：獣医療見学(岡部獣医師)、午後：動物園展示(高野氏、綿貫氏)</p> <p>■ 実習内容 7月3日の午前は、伊谷先生から、国内の霊長類学の歴史や日本モンキーセンターの発足について学んだ。午後には、赤見キュレーターの指導の下、来園者観察を行った。園内では様々なサル類が飼育・展示されており、どのサル類も魅力的であったが、その中でも私はリスザルを選んだ。観察項目は、来園者の性別・滞在時間・会話内容である。観察をする前は、私はリスザルの森に来園した人々の滞在時間は3分程度、また、その興味はリスザル同士の触れ合いなどに向くのではないかと予想していた。しかし実際に観察してみると、驚くことに、来園者(6グループ)の平均滞在時間は約20分であった。その理由としては、リスザルの森の造形が、人とサルを隔てる明確な柵が無く、間近でサルを観察できる造りであること、また、飼育担当者が常駐しており、来園者と積極的に会話を行っていたことが挙げられる。加えて、ほとんどの来園者が、2人組等のグループで訪れていたことも関係していると考えられる。また、来園者の会話を聞いていると、リスザルの外見について述べる(「かわいい」など)だけではなく、「なぜ尻尾があんなに長いのだろう?」「おんぶされている赤ちゃんは絶対に親から離れないのかな?」など、疑問を持ってリスザルを観察していた。このように、来園者観察では、私のように普段から動物の研究を行っている訳ではない人々の反応を観察し、新しい発見をすることができた。来園者がどこに興味を持っているか、また、来園者にどのように対象動物について知ってもらおうかを考えるためにも、来園者観察を行うことは大切だと感じた。</p> <p>7月4日の午前は、実習生が各グループに分かれて飼育実習を行った。私は星野キュレーターに同行し、リスザルの飼育現場を観察させていただいた。リスザルの飼育は、主にリスザルの休息部屋の掃除、エサの供給、そして来園者との会話であった。リスザルの朝ご飯はリンゴ、バナナ、牛乳を浸した食パンであったが、星野氏の話によると、別の時間帯にはイモ類や野菜などを与えていたり、タンパク源としてミルワームも与えており、サルの健康を考えた食事を供給していることがわかった。午後は、新宅氏の指導の下、リスザルの解剖の観察、標本やサル類に関する美術品が収容してある貯蔵庫の紹介、および実際に自分たちでサル類の骨を大別する標本実習を行った。サル類の解剖を間近で観察するのは初めてであり、新宅氏の話聞きながら多くのことを学べた。また、貯蔵庫には天井近くまで骨格標本や剥製が保管しており、その種類の多さに圧倒された。JMCでは多くのホルマリン標本を袋詰めして保管しており、工夫を凝らして保管スペースを確保している努力が伺えた。標本実習では、サルの骨を部位ごとに分別して保管箱に詰める作業を行った。作業の途中で他の実習生と骨を比較することで、加齢による脚の骨の擦り減り度合いや骨折の有無、サルの種ごとの骨の大きさの違い等が明確にわかって楽しかった。これらの見学・体験を通して、標本の管理方法、及び標本を残していく重要性を学べた。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

7月5日は、午前にも岡部獣医師のレクチャーを受け、その後実際にパタスモンキーの抜糸を見学した。私は過去にペットクリニックでアルバイトを行っていた時期があったため、小動物の治療現場を目にする機会はあったが、サル類の治療現場を観察するのは初めてであり、貴重な体験ができた。特に、種によっては麻酔の仕方が小動物と異なっており、大型の動物の治療の難しさを感じた。麻酔の時間管理や治療後の経過観察は徹底されていて、個体の健康にとっても配慮されていることが分かった。午後は綿貫氏から動物園の展示法についてレクチャーを受け、その後園内を見学した。前2日間は、ほとんどをリスザルの森で実習を行ったため、他の飼育施設を見学できておらず、この園内探索で各施設をゆっくり見学・比較することができた。飼育施設の中には、アフリカ館のように古く狭い展示スペースの施設もあった。そのような場所でも、来園者の興味を惹くような説明書きがあったり、また、少しでも動物の生育環境を良くしようとするエンリッチメント等が見られた。来園者の興味を惹くことと、動物の健康を両立させることは難しいことかもしれないが、園内の様々な構造物から、その努力が伺えた。

3日間の実習を通して、動物園・博物館の在り方、及びキュレーターの多様な仕事を学ぶことができた。動物園や博物館は、ただ生物を展示すればいいわけではなく、その生物のことをもっと知ってもらうために、裏で様々な努力が為されていることがわかった。また、JMC では数多くの標本などの資料管理も行っているため、その管理方法を学ぶこともでき、改めて博物館の重要性を感じる事ができた。



リスザルの飼育実習



リスザルの解剖見学



標本実習



パタスモンキーの抜糸見学

6. その他 (特記事項など)

今回の実習を行うにあたり、快く受け入れて下さった日本モンキーセンターの皆様、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。